

# 平成28年度

## 小規模多機能型居宅介護 おきなぎの家 サービス評価

### ◆自己評価

事業所自己評価・・・・・・・・・・(事-①～⑨)

### ◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28年 11月 21日  
13:45~14:20

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0人	7人	2人	30人	9人

前回の改善計画

- 1、初期支援の関わりとして、職員皆が必要な情報を見る、聞く、伝える、記録に残す事がサービス提供者の証となる事を再確認していく。受け身ではなく積極的にご利用者一人一人との関わりを多く持ち、相手の事で知り得た情報は共有できるようにミーティングなどの場で意見交換していく。
- 2、記録について、見ている人見ていない人もおり、口頭で伝わっている事で関わりにバラバラな所もみられるので、ご利用者と関わっていく中で、気付いた事(観察力) 大事な情報は(関わりをもつ上で)分かるように記録に残す。仕事に就く前には必ず記録を確認するという意識を一人一人持つ。
- 3、おきなぎの家を利用しようと考えておられる方の話しがあれば、本人・家族があまりサービスについて考えておられない場合でも、様子を見ながら利用という事ではなく、挨拶や顔を見に行くという関わりからできるようにする。

前回の改善計画に対する取組み結果

- 1・2、初期支援の関わりとして、必要な情報は各自で収集できていた。(記録・申し送りノート・書面・ミーティング等) 職員によってばらつきはあったが、送迎時・訪問時・通いで生活場面で、知り得た情報については、記録や1日1回のミーティングで意見交換でき、情報把握できていた。又、休みの職員については、休みの期間の記録や情報など共有しないといけない所については、基本はパソコンを確認する事となっているが、パソコンが使用されている場合は、確認方法がないので、それぞれの手段(申し送りノート・他職員からの口頭説明)で仕事に就く前の情報共有と言う意識は一人一人持っていた。
- 3、他事業所より、事業所近くの方で気になる方についての情報を聞き、様子伺いの依頼があった場合、様子を見て声掛けが出来ていた。新規登録(利用)には繋がらなかったが、繋がるように様子を見て声掛けをし働きかけていた。(事業所のサービス紹介など) 近所の方でゴミ出しや、イベントへ参加する時に出逢うと挨拶できていた。気になる方が地域に居られ、職員同士で声にしているが、どのように関わりを持っていけばいいのか、時間や職員体制にゆとりがない時期もあり、事業所から積極的に顔を見に伺う事ができていなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	0	7	2	0	9
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	6	1	0	9
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	3	5	1	0	9
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	6	2	0	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>①フェイスシートや初回面接記録を、初回利用時まで作成し各自把握できるようになっていた。又、書面に記載してあるが、注意して欲しい事に関しては、口頭でも再度伝えるようにしていた。フェイスシートにあがっているニーズが本人にとってのニーズなのか疑問になる事もあるが、初回で聞かせてもらっているニーズは書面を見て把握できている。又、毎月のモニタリングを兼ねたカンファレンスで、ニーズに対しての振り返りを事業所全体でしているの、その日休みである職員は記録を見て情報収集できている。記録だけでは把握できない細かな部分に関しては（言葉のニュアンスなど）お互いに口頭で確認して共有できるようにしていた。</p> <p>②初回面接時に、本人や家族の希望を聞き、事業所サービスの紹介（通い・訪問・宿泊・料金の説明など）をし、ニーズを把握した上で、サービスの組み合わせや福祉用具など事業所以外のサービスも考え、本人・家族に提案し説明・同意をもらい支援している。本人や家族の思いも聞きながら、必要なサービスや希望されるサービスがあれば、職員体制の事もあり希望通りには対応できていない所もあったと思うが、現状の体制でできる範囲のサービス提供はできていた。</p> <p>③他利用者に馴染めていない、自宅での生活が実際把握しているのと違っているのではないかと、疑問に思う事が、ミーティングの場で上がり、随時安否訪問に伺っていた。職員によって偏りがあるが、事業所としてはできていた。フェイスシートを作成する段階や、初回面接だけでは把握しきれない面もあるので、職員それぞれが関わる事で、情報収集でき新しい気付きもできていた。</p> <p>④本人の思いや家族の思いなど時と場合によっては、それぞれに話しを聞きお互いの思いを聞かせてもらっている。家族の介護疲れや不安な面に関しては、送迎時や訪問などで話してもらえる時には、話しを聞かせてもらい、ねぎらいの言葉や傾聴し、必要時は間に入って話しが進むようにしていた。気分を害されないように注意しながら慎重に、職員同士相談しながら、事業所としてお願いしたい事はその都度伝えていた。</p> <p>その内容も記録や申し送りノートに残し、共有できるようにしていた。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりが事業所として弱い面でもあり、受け入れ体制を整えば利用前提での関わりができているが、利用有無関係なく、どうされているのかなど自宅を訪問する事が積極的にできていなかった。他事業所から気になるので見てほしいと依頼がある時は、気に止めて様子伺いなどできていた。</li> </ul>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者以外で、いつもと様子が違うなど情報を聞いた時には様子を見て、ご利用者宅を訪問・送迎後など近くを通る時には様子伺いに行く。まずは、挨拶から始まり顔なじみの関係を作るようにする。</li> <li>・次年度は、曜日を決めて地域に出向き、ご自宅を訪問できるようにする。（新規ご利用者に繋がるように）</li> </ul>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成28年 11月23日(金)  
14:20~14:50

2. 「～したい」の実現(自己実現の尊重)

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	6人	2人	0人	9人

前回の改善計画

1、ご利用者一人一人の個人ファイルに挟んであるケアプランを確認する。ケアプランをしっかりと目を通す事で同じ方向性で対応が出来るようにする。対応していく中でケアプランの見直しが必要ではないかと疑問に思う事を提案できるようにする。その為には、ご利用者の観察力を日々の関わりの中で身に付ける事で、一人一人のスキルアップに繋がるようにする。

2、業務優先である所をどのようにしていったら良いか会議などの場で見直し、ご利用者と関わりを持つ事で見えていなかった部分が見えるようにコミュニケーション力をつけていく。見えてきた部分については、共有できるように記録に残すなどしていく。職員の枠に利用者をあてはめるのではなく、利用者中心で気持ちに寄り添い時間ではなく本人のペースで、したい事に对应できる職員となる。

前回の改善計画に対する取組み結果

1、各担当ご利用者のケアプランについては、更新や区変、新規作成時などで作成されたプランを確認し、把握できていた。又、見直しが必要ではないかと疑問に思う事なども、ケアマネに提案できていた。月1回ケアプランに沿ってモニタリング(計画作成された目標ができていたか見直し)をし、職員間で意見を出し合い、同じ方向性で対応できるよう取り組めた。その日お休みの職員については、後日記録で確認し、情報共有できていた。一人一人スキルアップに繋がるように、各ご利用者担当の職員は、モニタリング時に様子や意見を持って話し合いができるようにしていた。その為には日常の様子をしっかりと把握するという事にも繋がっていた。

2、業務で一番問題となっていた記録方法について、業務改善会議で話し合い、出た意見を職員会議で提案、それぞれが記録していくのではなく、入力できた職員は出来ない職員と交替して、ご利用者と関わりを持つように見直し実行できていた。関わりを持つ事で、昔していた(手先を使った)事や、得意とする事など、行きたい所など把握でき、職員の人数によっては急遽近場にドライブなど実行できた。見えない部分の個々の様子も見え、記録に残す事も出来ていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?	1	4	4	0	9
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	4	4	0	9
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	3	5	0	9
④	実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	2	5	2	0	9

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①・②・③ケアプランに基づいて、月1回のモニタリングで目標の確認と日々の関わりの中で気づいた事など意見交換し、対応している。プランに上がっている目標に関して、達成できるように職員全員で取り組もうとする姿勢はあった。

④ご利用者と関わりをもつ中で、「～したい」と希望を聞かせて頂き、地域でのイベントやドライブ、外食・買物など、計画を立てて実行出来ていた。振り返りもでき、次の行事に向けて計画が出来ていた。前年度に比べ、外出する機会もたくさん作れるようになった。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
①②③プランを立てた時のご利用者の状態と、モニタリングする時の状態とが合っていない事があった。急遽の場合は変更ができず、そのままモニタリングで評価していた。	
次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアプランを作成する際、モニタリングで出た意見をプランに反映させる為には、職員一人一人が関わりを持つ事で、ご利用者の目標となる部分を会話の中からキャッチでき、職員同士意見交換できる場を作り（ミーティング等）目標に向かって支援できるようにする。又、作成されたケアプランについても、各自で目を通すようにする。</li> </ul>	

事-②

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成28年 12月5日(月)  
13:45~14:00

3. 日常生活の支援

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	7人	0人	0人	9人

前回の改善計画

- 1、職員一人一人が積極的にご利用者と関わりを持ち、一つでも多く自分からご利用者の事を知ろうとする姿勢を持ち、知り得た事を共有できるようにし、事業所として一人一人のご利用者の情報がたくさん集まるようにする。フェイスシートに書き込み今後の参考にしていく。
- 2、報連相について、入浴担当職員や訪問に入っている職員に必要な情報が伝わっていない事があるので、職員一人一人がご利用者の大事な情報は伝えるという意識を持つ事。又、今伝えないといけない情報を優先し、後でも良い情報については後で話をするなど見極める力をつける。その為には、まず情報を自分止りにせず、伝える(報告・連絡・相談)事を徹底する。

前回の改善計画に対する取組み結果

- 1、色々な場面にご利用者と関わる中で、今まで情報として知らなかった部分について、職員間で共有が必要な事については、記録やミーティングなどで共有できるようにしていた。(フェイスシートに記載されている事もあったが、殆どがパソコンに記録をした)職員一人一人に情報収集量の差はあった。特に、サービス利用が浅いご利用者の情報(初回面接時などで見えなかった部分)が集まっていた。
- 2、業務改善会議で提案し、1日のリーダーを決め、リーダーに情報が集まるように業務を見直した。リーダーから、外出している職員(訪問)や入浴担当にも情報が行くようにできていた。どの情報を今伝えるのか、その時不必要な情報を職員に伝える事もあったが、伝えようとする意識(報告・連絡・相談)は前年度より成果は見られた。(情報収集、共有)

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	0	2	6	1	9
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	5	4	0	0	9
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	2	4	3	0	9
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	4	5	0	0	9
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	3	5	1	0	9

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①職員一人一人が、一人のご利用者に対して10個となると、把握できていないという意見が上がったが、ご利用が長い方、浅い方との差もあり、職員皆が知っている情報を合わせれば、10個以上になり、事業所全体としてはできていた。日々関わる中で、気付いた点は共有できるように、ミーティングや記録に残していた。

- ②送迎や訪問時に体調の確認をし、その時の体調に合わせ支援させて頂いた。場合によっては（体調不良）無理に一人対応で介助せずに、応援職員を呼ぶなどして本人や職員にも負担がかからないように、その時に関わった職員の判断で連絡・相談ができ、対応できていた。
- ③・④・⑤通い迎え時の自宅での様子や、本人・家族から聞かせて頂く事、家族とのやり取りの中で、感じる本人・家族の想いを察知(声にならない声)して、職員間で情報共有できていた。自宅での様子や事業所での様子が違うなど、他利用者に対する言動についても気になる時は、気づいた職員から他職員に伝え、見守りができるようにしていた。また、時と場合によって過ごして頂く場所や食事席を変えるなどの配慮もできていた。ミーティング等で対応を見直す事が出来ていた。共有する部分については、その日休みの職員も分かるように記録に残していた。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・事業所としてはできているが、一人一人の職員として考えると情報収集が少なく差がある事や、経験年数、得意分野、不得意分野とある中で、他職員のフォローもあり全体的には出来ていたので、この科目に関しては、事業所としてできていない点は上がらなかった。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・ご利用者の「以前の暮らし方」が10個、一人一人の職員が見つけられるように、相手を知ろうとする姿勢で、日々の関わりの中で把握できるようにしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成28年 12月 9日  
(14:30~14:50)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	4人	3人	2人	9人

前回の改善計画

- 1、ご利用者の情報で知り得た事は、職員間で共有し、新しい情報についてはフェイスシートに書き込んでいく。
- 2、ご利用者と地域との関わりが途切れないように、地域行事には参加してもらえるように促しをし、サロンなど職員も一緒に参加できるようにしていく。おきなぎの家として、地域との関わりが持てるように行事などにも参加し、又おきなぎの家の行事にも参加してもらえるように呼びかける。少しずつ地域との接点を増やしていく。
- 3、ご利用者が住んでおられる所の民生委員の把握は必ずする。(他事業所に確認するなどして)
- 4、社会資源について、どんな時にどんなサービスが受けられるのかなど、受け身や人任せにせず、率先して調べる(対応している事業所に聞くなど) 調べた事を共有できるようにする。又、地域行事でご利用者と一緒に参加できる内容の物があれば調べ、必要時は関係機関に連絡するなどして職員からも情報が取れるようにする。
- 5、新規面接の時に、ご利用者・家族に利用される事を地域の民生委員に伝えても良いか確認し、承諾していただける方は、地域の民生委員に伝え、何かあれば協力してもらえる体制作りをする。(特に独居の方)

前回の改善計画に対する取組み結果

- 1、初回面接時以外に、通い迎え時や訪問などでコミュニケーションから把握できる様子について、日々のミーティングで共有できている。記録にも残している。
- 2、特に伊根地区である行事は把握し、(回覧板、広告、町広報誌)積極的に呼びかけもでき、ほとんどの行事に参加する事ができていた。寿茶屋にも参加して、交流を持つ機会もあった。又、ミニ勉強会にも、ご利用者と職員と参加できた。サロンについては、利用前から参加されている方については、把握でき参加してもらえていた。職員も一緒に参加する事は今年度できなかった。地域との関わりができていない所もあり、どのように参加していいのかが職員間で話すのみで終わっていた。参加はできなかったが、サロンの様子など情報収集できる所もあると思い、平田区の主催者に挨拶に行ったが、もう一歩が踏み出せていなかった。
- 3、5、平田区の民生委員は把握できていた。事業所から近い所に住んでおられたので、担当区のご利用者の話や、気になる方の話になり、情報収集できる機会になった。又、地域で生活するのに見守りが必要と感じたご利用者担当区の民生委員は把握し、必要な時は協力がいただけた。(家族様が外泊中など)
- 4、社会資源については、伊根町でできる資源については事業所として把握できていると思う。事業所の敬老会では、ボランティアを調べ3日間実施したが、3日間とも違う方が来所して頂けた。(敬老会行事のボランティア担当職員が中心となって対応できた)



◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？	1	8	0	0	9
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	2	5	2	0	9
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	0	6	3	0	9
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	0	3	6	0	9

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①	<p>地元で生活している職員もおり、以前から顔見知りで、地域での本人の様子など分かる面もある為、職員から聞く情報も参考にしながら、初回面接時に生活歴など聞かせてもらえる範囲で聞き把握している。通い・訪問時で見える本人の様子や、コミュニケーションの中で、他者との関係など分かる部分について、必要な事は職員間で共有している。</p> <p>②本人・家族に関して、お互いの関係性を把握し、間に入って伝えられない想いなど聞く事や、本人・家族にそれぞれの想いなど言葉を選んで伝える事も出来ていた。利用者によって、地域との関係がある方ない方とあるので、ある方については、地域との関わり（状況）について、コミュニケーションの中から確認できている。又、関係が切れないようにサービスについても、状況を見ながら変更もできた。</p> <p>③④近所の方や、ご利用者の地元の親戚の方、民生委員から聞かせてもらう事で、把握ができ繋がりも持てた。何かあれば連絡いただけた。職員間でも共有できた。</p>

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・	<p>民生委員との関わりは一部のご利用者であり、全体的には民生委員を巻き込んで地域との交流（サロンも含む）が出来ていなかった。</p>

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・	<p>おきなぎの家を知って頂ける機会として、民生委員に挨拶に行き、地域でサービスが必要だと思われる高齢者がおられないかなど聞かせていただく。又、何かあれば相談していただけるように、認知症あんしんサポート相談窓口の呼び込みもでき、今後の繋がりを持てるようにする。</p> <p>・サロンへの呼びかけに、民生委員にも協力してもらい、事業所・民生委員・サロンと繋がりが持てるように進めていく。</p>

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28年 12月13日  
(13:45~14:10)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	3人	3人	1人	9人

前回の改善計画

- 1、事業所だけで抱え込んでしまう所もあるので、協力してもらえよう資源はないか他事業所などにも相談する。住み慣れた地域で資源をうまく活用して、在宅生活が送れるように支援していく。
- 2、関わりの中で気づいた事や訴えなどあれば、記録に残すという意識を持って業務に就く。
- 3、夜間の訪問が必要になれば、職員数が足りなくなると予測されるので、人事に関する事については、上司に報告と提案し、職員配置を考えてもらえるようにしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

- 1、事業所だけで抱え込んでしまう所は、事業所の弱い部分である。事業所だけではどうする事もできないケースになれば、課長に報告しアドバイスいただけた。住み慣れた地域で資源をうまく活用して、受診などは社協の移送サービスや、本人が地域で頼りにしておられる方や、家族(甥)に依頼され受診できる関係性もできていた。
- 2、日々の関わりを持つ中で、本人・家族の気づきや訴えを記録に残し、日々のミーティングで報告もできていた。又、毎月のモニタリングでカンファレンスする際にも、振り返りや対応が今のままでいいのか見直す機会もできている。(意識を持つという部分では、特に各利用者担当職員は、その方の様子をしっかりと把握してカンファレンスするように取り組めた。)又、ミーティング以外の時間でも、職員2人以上でのご利用者の様子や今後の相談に関しても、記録に残すように取り組めた。
- 3、夜間緊急な事があれば対応できるように、職員が順番に待機電話を持ち連絡が取れる体制はできている。夜間帯連絡(日勤帯以降)があった時は、ご利用者宅を訪問もできていた。家族介護負担があり、ご家族の方には訪問対応が夜間もできる事を説明させていただいたが、(職員体制の事も説明させて頂く)実際は夜間の訪問は希望なかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	2	3	4	0	9
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	4	3	2	0	9
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	5	4	0	0	9
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	4	4	1	0	9

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ①本人の生活に必要な資源については(一人一人ご利用者に違いはあるが)、地域にある資源を把握し支援できている。
- ②小規模多機能の特性を柔軟に活かし、サービス量を増やす、減らすなど対応できていた。宿泊については、職員体制の事も説明をさせていただき、希望回数より少ない月は通いを追加し対応した。
- ③ご利用者同士の会話で気になる点や、余暇時間の手作業についても、状況を細かく記録に残していた。ミーティングまでに必要な情報は、リーダーに伝え、他職員に伝わるように取り組んだ。
- ④通いお迎えに伺い、体調面や精神面での状況を見て訪問に切り替えるなど支援できていた。判断に困る時は事業所に連絡し、対応ができていた。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきの部分で、事業所全体としてはできているが、職員に偏りがある。</li> <li>・資源の部分では、サロン・本庄地域に対するアプローチが弱い。</li> </ul>	
次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人一人が、ご利用者のいつものこの部分は変わらない反面、少しいつもと様子が違うなど、コミュニケーションをとる中で、見極められるよう積極的にご利用者との関わりを多く持ち、気づいていけるようにする。</li> <li>・本庄地区のご利用者の方には、地域で行わる行事に参加・見学して頂けるようにする。又、おきなぎの家から、ご利用者と職員が行事に参加・見学する事で、事業所名と職員の顔を知ってもらえるきっかけになる。その日の状況もあるが、可能な限り参加する事で他者（地域）から声をかけてもらえる関係を作り、徐々に地域と繋がりが持てるように努力する。</li> </ul>	

事-⑤

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成28年 12月 13日  
(17:15~17:40)

6. 連携・協働

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	4人	4人	0人	9人

前回の改善計画

- 1、管理者、計画作成者以外にも参加してもらえる会議には、他職員も参加してもらえるようにする。(福祉用具追加などの担当者会議)
- 2、おきなぎの家で何かイベントする時は、地域の方に声を掛け参加してもらえるようにする。その為にはぎりぎりではなく、事前に声をかけられるようにする。
- 3、地域との繋がりが欠けないように、参加できるイベントについては積極的に参加し、まずはそこから繋がりを持ち、顔なじみになる事で次の声がかかるように、又事業所からも、イベント以外で、おきなぎの家に遊びに来てくれそうな方がいれば、積極的に声をかけていけるようにする。

前回の改善計画に対する取組み結果

- 1、今年度は、各ご利用者担当職員に担当者会議に出席してもらい、通いで様子など話してもらおう機会ができていた。
- 2、3地域に向けて、おきなぎの家主催でのイベントは出来ていなかった。どちらかと言えば、事業所が地域へ出向く方が多かった。イベント以外で遊びに来てくれそうな方については、お茶会に参加した際、地域から声をかけていただけ、職員からも「また遊びに来てください」と声を掛ける事ができた。地域の方で、以前も好意で包丁を研いで頂き、時期を見て再度来所され、包丁を研いで頂けた。その日通いのご利用者の中に、知り合いの方がおられ、少しの時間であったが上って話しして頂ける機会も作れたが定期的ではなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	3	3	2	1	9
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	1	2	2	4	9
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	1	5	1	2	9
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	0	1	1	7	9

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ①必要に応じてサービス機関と調整し、担当者会議の開催ができていた。
- ②自治体の会議については、年度末に開かれる会議に参加できるよう区長に声をかけたが、参加まではよいとの事で参加しなかった。地域包括支援センターとは、1ヶ月1回会議があるので参加出来ている。
- ③町の防災訓練に、ご利用者と職員と参加した。避難する際、近所の方にも声をかけていた。又、東平田で行われた消防訓練や、消火器の使い方など地域住民の中に職員が入り一緒に話聞く事や、訓練ができていた。イベントに参加とはならないが、伊根祭りで神輿を見に行く事や、町のマラソン大会も応援する事ができていた。
- ④9月の行事で、近隣の方に声を掛け、敬老会のボランティアとして来て頂けた。ご利用者との交流も持っていた。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
④地域との交流が事業所として弱い部分でもあり、頻繁に住民が訪れるような関係性は出来ていなかった。 (区費・募金の集金、回覧板を持って近所の方が訪れていたが限られていた。)	
次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> <li>他事業所（小規模多機能）の取り組みを見学に行った職員より話を聞かせて頂き、今後事業所として地域と何か一緒にできる事はないのか職員間で話し合い、おきなぎの家ならではの活動が月1回は行えるように考え、実行する。</li> </ul>	

事一⑥

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成28年 12月 17日  
(15:15～15:30)

7. 運営

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	1人	7人	1人	9人

前回の改善計画

- 1、事業所の事を地域の方にも知ってもらえるような機会を作っていく。まずは職員の顔から知ってもらえるようにコミュニケーションを積極的に取り、その流れから誘い誘われるような関係を作っていく。
- 2、運営についての話しができるように職員会議で提案し、相談できるようにしていく。
- 3、苦情や意見に関して、ご利用者や家族、地域からいつ話があるか分からないので、職員それぞれがしっかりとその事柄を受け止め、直ぐ答えないといけない事なのか、持ち帰って考えさせてもらっての返答でもいいのか見極める力を身につける。その為には、ご利用者・家族・地域と積極的にコミュニケーションをとり、話してもらえよう環境作りに努める。

前回の改善計画に対する取組み結果

- 1、伊根町に1つしかない小規模多機能型居宅介護事業所であり、伊根地区でもおきなぎの家がどこにあるのか知らない方がおられるが、認知症相談窓口に来所されたり、認知症カフェに利用者と一緒に参加する事で、知らない方に、おきなぎの家を知ってもらえる機会が出来ていた。地域に出向いて行く事は徐々にできているが、不十分である。地域で行われる防災訓練では、近所の方が時間と場所を伝えに前日に来てもらえたが、誘い誘われる関係については、十分とは言えなかった。
- 2、課題となっている残業について、何かいい方法がないか業務改善会議で話しをし、会議で提案し実行、評価もできていた。評価する中で、1つでも残業が減っていく方法を考え、シルバー人材センターより掃除に来て頂いている事もあり、少しずつ残業が減っている。又、職員会議では、施設長・副施設長・課長より運営の話しを聞き、おきなぎの家の現状と経営状況なども把握できる機会があった。
- 3、職員に個人差はあるが、見極めて対応できていた。持ち帰って対応する場合でも、相談した結果を、時と場合、内容によって異なるが、関わった職員が最後まで対応する事も出来ていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	0	6	2	1	9
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	0	6	3	0	9
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	0	0	5	4	9
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	3	2	4	9

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ①小規模多機能の特性については、みんな説明ができるが、事業所「おきなぎの家」ならではの、あり方について、地域との関わりが弱い点があり、事業所としても何か地域に向けてできないかなど模索している中、サロン活動のような事ができると、今後の利用者獲得に繋がるなど、認知症相談窓口の方法を変えるなど意見を出し合う所まではできていたが、実行までにはいかず、他事業所(小規模多機能)がどのような取組みをしておられるのか見学に行き、学んだ事を職員間で共有し、おきなぎの家ならではのやり方を考えている段階である。
- ②ご利用者や家族から苦情に関する事を聞かせていただいた時は、その場で苦情なのか確認し受付をした。

改善が必要な事については、日々のミーティングで話し、回答を家族にも伝えている。苦情について、直ぐに対応する姿勢で取り組みもできていた。今年度苦情としてあげさせて頂いた件はなかった。意見を頂いた事があり、必要なケースについては、他職員に伝え今後の対応を話し合い共有すると共に、解決策を家族に返答させていただいた。

④祭り前には七面山の掃除や、ゴミ収集場所の掃除当番を地区で順番に行う事ができた。おきなぎの家は7月に一ヶ月間実行できていた。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

③④地域からの意見や苦情を聞かせてもらうような関係作りが出来ていない為、聞かせてもらう事はなかった。運営推進会議に参加されているメンバーより、頂いた意見は職員会議などで、報告させて頂いている。民生委員から頂いた意見で、今年度は朝妻地区と平田地区の民生委員の方に順番に会議に出席していただける機会ができ、地域の実情など知るきっかけにもなった。又、おきなぎの家の実情も知って頂ける機会ともなった。その中で地域との関わりが弱い、地域に名が知られていない事も実感でき、考えていく意識が職員間でも差はあるが口にするようになった。(今後の課題)

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

・区長や民生委員の方と一緒に地域を回り、気になる高齢者の把握を事業所職員が目で見えて把握する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成28年12月17日  
(14:15～14:55)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	2人	3人	2人	9人

前回の改善計画

- 1、研修に関する内容の物が事業所に届いた時、一定期間閲覧できるようにする。各自積極的に参加するという意識を持って目を通す。
- 2、1年に1回以上外部研修に参加するという目標を持ち、自発的に参加したいと思う研修を考える。
- 3、長寿苑の方に届く研修内容もあるので、行きたい研修があれば一声上司に声を掛ける。
- 4、積極的に研修会に参加し、スキルアップしていく事で、資格取得の繋がりになるようにする。
- 5、報告書を書くのが、自宅での作業となる所もあり、日々の業務の中で時間がある時には声を掛け合って、作成できる時間をお互いに作る。

前回の改善計画に対する取組み結果

- 1、2ファックスで届く研修もあるので、ファイルに綴じ一定期間閲覧できるように、事務所で管理していた。1年に1回以上は外部研修に参加するという周知はあったが、積極的にと言う部分に関しては、個人差がみられた。(自発的に参加希望があった方もいた)本人が希望とする研修を予め聞き、参考にして、研修担当より声が掛けられていた。事業所全体とすると、半数以上の職員が参加できている。
- 3、ファックスで届く研修で、気になる研修があれば課長に報告検討して頂いていた。その中で、違う研修の方に参加する方が良いとアドバイスを頂き、個人個人の行きたい研修など希望を伝え、情報交換できていた。
- 4、内部・外部研修に研修担当者からの声もあり、積極的にと言う部分では個人差があるが、他職員の一押しがある事で、事業所全体として半数以上の職員が参加できていた。  
基礎資格を取得している事もあり、次のステップとして、事業所全体ではないが、1名の職員がチャレンジする事ができた。
- 5、朝・昼のミーティング時に各自持っている仕事があれば報告し、作成できる時間をお互いに作れるようにしている。又、夜勤がある時はその時間でできるようにしている。会議録については、直ぐにできるが出張報告書については、量も多い事もあり直ぐにできないので、時間内でする事が難しい。引き続きお互いに協力できるようにしていく。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	2	5	2	0	9
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	4	2	2	9
③	地域連絡会に参加していますか	0	0	2	7	9
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	2	6	0	1	9

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ①・②職場内・職場外の研修について、事業所職員全体的に参加できている。特に職場外については、今年度から研修担当者をつくり、研修に関するサポートができた。前年度より、半数以上の職員が参加できている。又、伝達研修もできていた。資格取得の為の研修についても、1名勉強会に参加する事ができた。
- ③地域連絡会については、どこでどのような連絡会なのか把握が出来ていなかった。同じ小規模多機能の近隣施設との与謝郡小規模連絡会には参加し、それぞれの事業所の近況報告や制度改正の話しなど、その月



によってテーマは変わるが、参加でき交流する事ができていた。(2ヶ月に1回)又、介護職や看護師が参加する与謝介護士交流会にも(2ヶ月に1回)順番に参加し、他施設との交流の機会が持っていた。

④事故にならないように一人一人ご利用者をよく観察し、ヒアリハットにたくさん気付く事で、事故に至らない様に事業所として努力した。又、部署の事故対策委員より、ミーティングが職員会議の場で、意識づけもできていた。長寿苑の他部署の事故報告書や、ヒアリハットを見る機会もあり、部署で同じような事がないように気をつける事もできていた。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

・外部研修については前年度より参加できていたが、積極的に参加となると限られていた。通常業務もあり、出張に行くと報告書を提出する事になるので、進んでの研修参加については今年度も事業所の短所であった。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

・質を向上するための取組みとしては、施設外の研修(他施設との交換研修など)に自発的に参加する事と、他施設からの研修を受け入れ、おきなぎの家の取組みを見てもらえる機会をつくる。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28年12月21日  
(15:00~15:15)

9. 人権・プライバシー

メンバー 黒田 奥野 楠田 上山 森下  
井上 嶋崎 太田 佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	8人	0人	0人	9人

前回の改善計画

- 1、ご利用者個人の名前が分かるような物や、一覧表については、ご利用者の目に触れることのないように整理整頓を含め、保管場所を決める。
- 2、パソコンを使用しない時間は入力画面を閉じる。
- 3、ご利用者の事を伝える時は、離れた場所で伝える。又、訪問など行く時も「〇〇さん所に訪問に行きます」と伝えるのではなく、例えば地区名を伝え訪問行く事や、お迎えに行く事を伝える。
- 4、言葉掛けについては、例えば「待ってもらえませんか？」など理由を説明し、選択肢のある言葉掛けを、個人個人意識しながら対応していく。又、何気なく発してしまう事も考えられるので、お互い注意し合えるようにしていく。
- 5、成年後見制度が必要な方が、これから先もあるかもしれないので、知識を身につける。

前回の改善計画に対する取組み結果

- 1、2 個人個人意識しながら、ご利用者の目に触れない所に置いていた。個人差もあったが、職員同士フォローしながら保管できていた。パソコンを使用しない時は、使用していた画面を閉じるようにしていたが、急を要する時など少し離れた時に、そのままになっている事があったので、再度注意を払う。
- 3、前年度外部評価を行った後より、個人名を出さず何う方面などで伝えるようできていた。
- 4、身体拘束廃止委員会発信の月間目標もあり、事業所全体として意識して対応できていた。できていない面が見られた時は、対応の仕方の助言できていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	6	3	0	0	9
②	虐待は行われていない	6	3	0	0	9
③	プライバシーが守られている	4	5	0	0	9
④	必要な方に成年後見制度を活用している	3	1	2	3	9
⑤	適正な個人情報の管理ができています	4	5	0	0	9

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ①②施設内研修に参加する事で、改めて考え振り返る事もできていた。ご利用者宅を訪問する際、自宅環境で変わった事などあれば、職員間で共有できていた。対応について、ご家族にアドバイスなど行う事もできていた。又、身体拘束廃止委員会からの呼びかけで、月間目標に目を通し、基本を基に対処できていた。事業所としては、①・②していない。
- ③⑤身体面で気になる事があれば、職員間で情報共有している。伝達する場所や声の大きさにも配慮し対応できている。又、個人情報については、施設からも十分に気を付けるように促しがあり、事業所としてパスワードを使う事で、各個人の大事な情報が管理できていると思われる。
- ④現在成年後見制度を必要としている方がおられないので、活用はしていないが、権利擁護事業は活用でき

ている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・成年後見制度について、名前は知っているがどのようなサービスが受けられるのか把握ができていない。知識不足で、説明する所までは身についていない。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・必要な方にはサービス利用が受けてもらえるように、成年後見制度に限らず他制度についても、説明できるよう研修会に参加するなどして身につけていく。

事-⑨

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	与謝郡福祉会	代表者	長谷川 栄一	法人・事業所の特徴	(法人) 与謝郡の福祉の担い手として、質の高い人材育成と職場環境の改善に努める  (おきなぎの家) もうひとつの家という考えのもと、住み慣れた家・地域で安心して生活ができるように、1つの事業所で「通い」「訪問」「宿泊」と3つのサービスを柔軟に組み合わせ、顔なじみの職員が対応することで、安心できる生活を送って頂けます。
事業所名	おきなぎの家	管理者	黒田 あすか		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	0人	0人	2人	0人	0人	1人	3人	9(6)人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>項目ごとに上げている改善計画が達成でき、事業所や各個人がレベルアップしていけるようにする。</li> <li>地域を支え又地域に支えられながら交流を持ち、地域に根差した施設になれるように、日々の関わりを大事にしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各個人での自己評価や、事業所自己評価を振り返り、できている所が多かった。できていない所については、事業所と地域との関わりが弱い所が、事業所ミーティングで明確にできた。</li> <li>来訪者の頻度は少ないが、来ていただいた時は、利用者や職員交えて話しをする機会があった。事業所近くの住民と出会った時は、職員の方から積極的に挨拶するように努められていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の振り返りを全職員できる機会がもて、去年の改善計画が達成できている所もあり、弱い部分(できていない所)もしっかりと把握することができた。</li> <li>全体的にはできている方だと実感することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度外部評価をする際は、項目毎上げている改善計画が達成出来る事、現状止まりにせず、次へと踏み出していけるようにする。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備不良な所については、早急に相談しながら修繕し、安心してゆったりと過ごして頂けるようなおきなぎの家を作っていく。</li> <li>家族、地域の方、見学者などいつでも来訪があっても良いように整理整頓を常日頃から心がけておく。</li> <li>定期的にしつらえの見直しができ、ご利用者にとって居心地の良い空間や、移動しやすい動線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用者が、おきなぎの家で過ごして頂く際、危険な箇所気づいた時は、すぐに上司に報告すると共に、修繕・購入するよう対応した。</li> <li>来訪者があってもいいように、常日頃から、いらなくなったものなどしまし、処分するなど、整理整頓していた。又、整理整頓する事で、ご利用者が転倒する事もなく、安全に過ごしてもらえるような空間も作れてい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用者が過ごしやすいうように、意見も聞きながら対応できていた。</li> <li>ご利用者同士の環境にも配慮し、設えを変更する事や、曜日変更・追加など合わせ、ご利用者が混乱・孤立しないようにと、職員間で考え、配慮する事も出来ていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寿茶屋や、認知症あんしんサポート相談窓口で来訪される方がおられるので、そこからの繋がりも大事にし、地域との関係が持てるようにする。</li> </ul>

	<p>となっているかなど、職員みなで試行錯誤しながら今の現状に陥らないようにする。</p>	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その時々のご利用者の様子を見ながら、必要時は部屋の設えを変えるなど、過ごして頂く場所を検討し、臨機応変に対応する事ができていた。</li> </ul>		
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりを大事にしながら、参加できるイベントには職員とご利用者と一緒に参加し、又地域の方にも、おきなぎの家で行なうイベントの時には、参加して頂けるように近所付き合いを心掛ける。</li> <li>・ご利用者、家族以外にも地域の方に、笑顔で挨拶がしっかりできるように、困った方がおられたら、ご利用者関係なく進んで声が掛けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で行われるイベントを把握し、ご利用者と職員と参加する事ができていた。参加した場所に知り合いの方が居られ、声を掛けてもらえるような時もあった。</li> <li>・近所の方と出会った時は、職員側から積極的に挨拶できていた。気になる近所の住民が居られたが、施設の職員と分かると警戒される所もあり、積極的に入り込んで関わりを持つ事は出来ていなかった。他事業所からの依頼があった時は、近所に住んでいる職員が、住民の1人として様子観察する事ができた。又、気になる方の情報は、職員間で共有している。(いざという時、対応できるように)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と関わる方法はいくつかあると思われるが、事業所として地域に向けた発信方法が見い出せていないのではないかと、徐々に接点を持つ事も出来てきているが、去年と比較すると、関わり方について変化がなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな取り組みや、行事・イベント・防災訓練などする時は、地域住民と一緒にできるよう計画していく。</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一つの家という考えの基、住み慣れた地域でサービスを組み合わせ、おきなぎの家での生活が中心ではなく、自宅での生活が中心となるように、ご利用者お一人お一人をアセスメントし、その方にあったサービスが提供できるようにしていく。</li> <li>・地域行事、サロンなど必要時は職員も一緒に参加できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の関わりの中で、お一人お一人の状況・状態に合わせ、必要なサービスを職員間で話し合い、本人・家族に提案する事ができていた。</li> <li>・伊根地区で行われる行事については、どのご利用者も、それぞれ参加して頂けるよう、曜日を変更して利用し参加してもらえる機会ができていた。</li> <li>・サロンについては、参加しておられるご利用者が少なく、ご自分で参加できる方であったの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者宅を訪問し、できる事・できない事を見極め、生活していく上で援助が必要な所を手助けし、住み慣れた地域で、長く生活できるように、ご利用者・家族・職員の協力の基、サービス調整を行っていた。</li> <li>・今年度の取り組み方法として、イベントがあり、その日通いでないご利用者の方にも、参加されないか伺い、数名であったが参加され、方法を変えた事による成果が得られたと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者が住んでおられる地域の民生委員と、職員との関係づくりができ、社会資源の一つとして、困った事などあれば相談でき、一緒に自宅訪問ができるよう、協力体制をつくる事と、事業所が地域住民との関係が深まるようにする。</li> </ul>

		で、職員は参加せず、ご利用者や主催者に様子を聞くなどして情報収集をとっていた。		
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議に出席して頂く関係者の方に、おきなぎの家のサービスや状況を知ってもらった上で、地域との関係性作りのアドバイスやサポートをしてもらい、次年度何か一つでも変化があるように職員・運営推進会議メンバーで協力し、取り組めるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催毎に民生委員や家族代表が変わり、前年度と方法を変える事ができ、地域の実情を知る事や、おきなぎの家を知って頂ける機会ができていた。民生委員参加については、伊根地区と朝妻地区の方に来て頂けた。(前年度のメンバーより、伊根地区だけではなく、朝妻地区の民生委員の方にも参加してもらってはどうか?と提案して頂き、伊根地区と朝妻地区で順番に参加して頂けた。順番についても、民生委員同士で連携がとれていた)一緒にあって、何か取り組む事が出来ていなかったが、以前に比べ話す話題が増え、運営推進会議メンバーとのコミュニケーションもとれるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年6回運営推進会議を開催する事で、それぞれの地区の民生委員に参加してもらう事ができ、おきなぎの家を知って頂ける機会が作れていた事と、地域でご利用者以外の気になる方の話も聞かせてもらえた。地域でサービスが必要な方の把握ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議メンバーに協力してもらい、地域を巻き込んで何か一つでも事業所として貢献できるようにしていく。又、行事や、災害訓練など参加してもらえるような機会をつくる。</li> </ul>
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練が年2回は義務付けられているので、地域の方に参加してもらえるように計画し、実施できるようにする(机上訓練なども取り入れてみる)</li> <li>防災グッズで足りない物など把握し、随時購入できるようにしていく(備蓄の確認)</li> <li>事業所の防災計画を全職員しっかりと目を通し、いざと言う時に誰もが対応できるように日頃から身に付けておく(防災計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練では、日中想定・夜間想定の実施ができた。夜間想定については、消防署の方にも訓練を見てもらい、指導して頂いた。その後、部分訓練で近所の方も誘ったが、都合が悪く参加してもらえなかった。机上訓練は実施していないが、実際動いて身体で覚えるように訓練はできた。(町の防災無線での訓練も毎回参加した)</li> <li>防災グッズ(備蓄の食材)につ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時、地域の方が避難される事も考えられるので、慌てず対応ができるようにする事で、地域の方も安心できると思った。その為には、日頃から身に付けておく事も大事である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所に来て頂けるきっかけの一つとして、おきなぎの家が避難場所と設定し、避難して頂けるよう合同訓練を計画していく。</li> </ul>

	画の見直しも含む)	いて、いざと言う時に対応できるよう、昼食時に1・2品出して食べてもらう事もできた。 ・備蓄については、数量など把握し、購入の検討をすることができた。		
--	-----------	---	--	--

